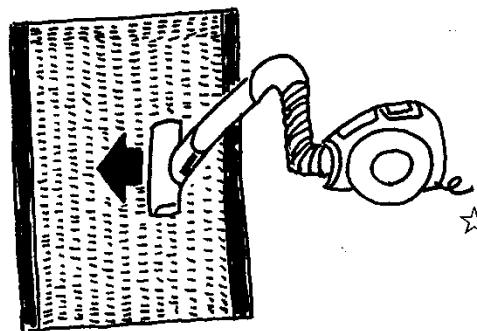


たたみのお手入れ方法

日常のお手入れ方法



☆ 掃除はマメに行うことが大切です。掃除機は畳の目に沿ってゆっくり軽く触れる感じで、ゆっくりと何度か同一部分を往復させて行って下さい。水拭きは避けた方が良いのですが、拭く場合は、きつく絞って畳の目に沿って行います。水分の多い雑巾で拭くと畳の光沢がなくなります。

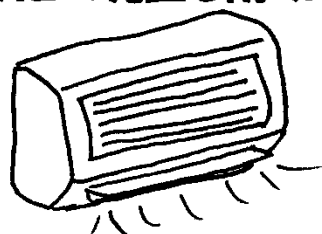
☆ 直射日光は畳表の変色を招き、傷みを早めます。カーテンや障子で避けて下さい。

☆ 畳の上にはカーペットや絨毯などを敷くと、畳の呼吸を妨げダニやカビが発生する原因となりますので、なるべく避けて下さい。

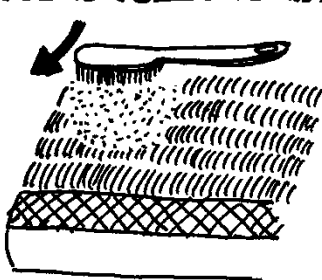
☆ 梅雨時期などの湿気が多い時期は、カビの発生防止のため除湿器の使用をおすすめします。特に取り替えたばかりの畳表は湿気を吸いやすいので 除湿器の使用は効果的です。

☆ 年2回程度(春と秋)、天日干しで乾燥させ畳の湿気を取りましょう。その際は畳の表を日光に当てないように裏返しにして晴天の日に4～5時間位干して下さい。畳を外に出せない場合は、畳を少し持ち上げて床と畳の間に空き缶などを4隅に挟みこみ、窓を開けて風を通すだけでも効果があります。

カビの発生を防ぐには…



カビが発生した場合は…

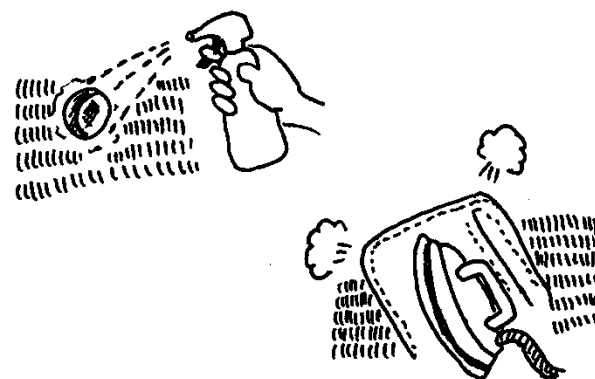


カビの発生する原因は、住宅内の換気不足による湿度の上昇が第一の原因です。天気の良い日には窓や戸を開けて、室内に風を多く入れることを心掛けましょう。梅雨時期などの湿気が多い時期には、除湿機やエアコンの使用をおすすめします。

古くなった歯ブラシで、たたみの目に沿ってカビを掃き出します。掃き出したカビは、掃除機で吸い取ります。次に、消毒用のアルコール（エタノール 薬局で購入できます。）を布に染み込ませて、たたみの目に沿って丁寧に拭いて下さい。拭き終わった後は、換気し十分に乾かして下さい。

掃除機でカビを吸い取る時は、十分に部屋を換気して下さい。部屋中にカビの胞子をまき散らし、カビが広がる可能性があります。

家具の跡(凸凹)がついた場合は…



家具などを置いていた跡が残った場合は、タオルとアイロンを使用した方法がおすすめです。水に濡らし固く絞ったタオルを凹んだところに被せ、上からスチームアイロンをかけると元に近い状態まで復元します。普通のアイロンの場合は、凹んだところに適度に霧吹きで水をかけ、絞ったタオルをあててアイロンをかけます。かけすぎると畳表の変色を招きますのでご注意ください。

シミや汚れの処理方法

☆ しょうゆをこぼした。(コーヒー・ジュース・お茶・お酒・ソース)

すぐにタオルやペーパー等で吸い取り、食塩をかけます。十分吸い取らせたら、歯ブラシ等で畳の目に沿って掃き出し、掃除機をかけて下さい。その後、水拭き・乾拭きを十分に行って下さい。

☆ ガムがついてしまった。

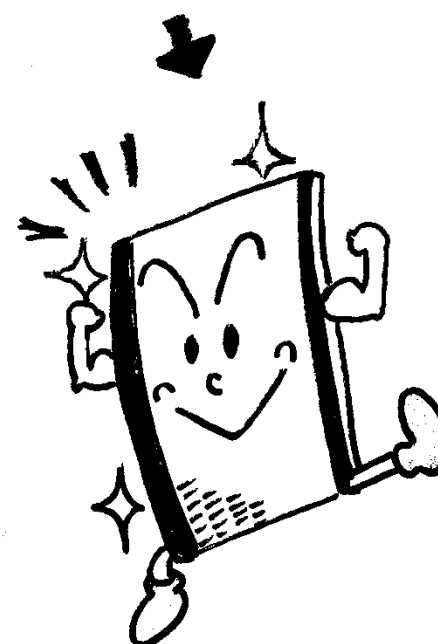
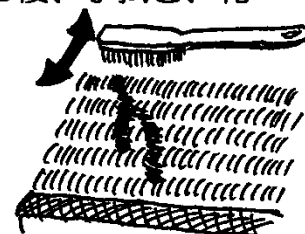
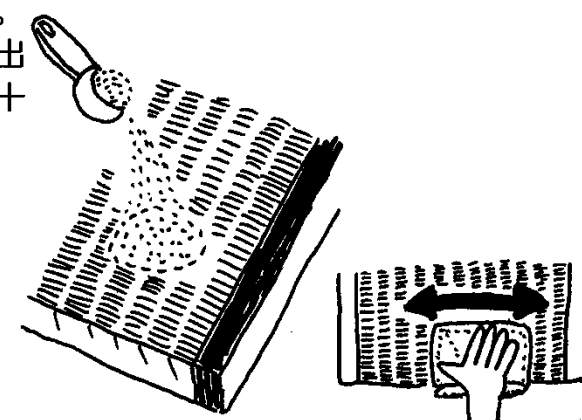
シンナーかベンジンを布に浸して拭き取ります。擦りすぎると畳表を傷めますのでご注意ください。畳の目につまっている時は、布の上からアイロンをあてて、柔らかくして取り除きます。

☆ クレヨンがついた。

住居用洗剤を歯ブラシに付けて、畳の目に沿ってこすり落とします。その際擦りすぎると畳表を傷めますのでご注意ください。その後、水拭き、乾拭きを十分に行って下さい。

☆ ペットがおしっこをした。

塩、小麦粉、パウダーのいずれかを1種類ふりかけ吸い取らせます。それを掃除機で吸い取り、お湯で濡らした雑巾を固く絞り拭き、乾拭きします。その後風通しをよくして水分を蒸発させて下さい。



梅雨は畳にカビが発生しやすい時期です！！

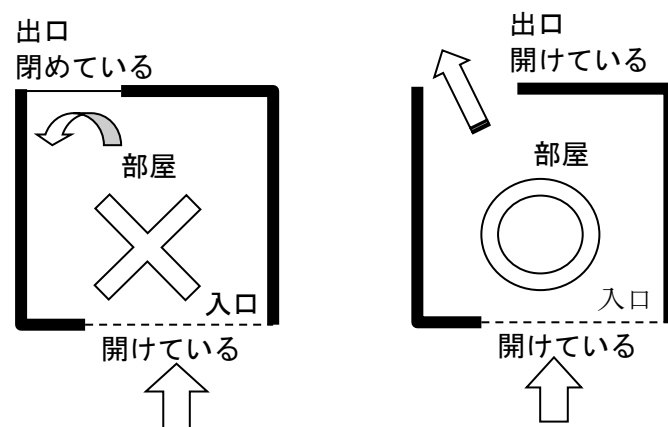
カビを発生させないコツは、空気を対流させてカビの菌を繁殖させない事です。

カビを発生させないコツ・・・

- その1. 掃除は毎日し、掃除機で畳表面の湿気や見えないカビ菌を吸い取ります。
- その2. 天気の良い日に、窓を開けて空気を呼び込みます。
(降雨後直ぐは逆に湿気を呼び込みますのでしてはいけません)
- その3. 除湿器やエアコンの除湿機能でお部屋の湿度を下げる。
(エアコンよりも除湿器をお勧めします。人がいない時に使用すると良いです)
- その4. 日中家にいない時は扇風機の首振りで部屋中の空気を対流させる。
(空気が3時間ほど滞留するとカビが生えやすくなります)

正しい『換気』の方法

カビが生えてしまわれた方にお話しをお聞きすると、「換気はしていたんですけど・・・」と良く言われます。部屋の換気は、片窓だけ開けても空気は動きません。空気が流れる為には入り口と出口が必要なのです。



昔の家はカビが生えにくい??

日本は高温多湿の気候の土地で、「呼吸」をする建築素材が昔から適していると言われ、多くの家が木造で、床下が高く、隙間風があり、窓も沢山ありました。



しかし最近では、家の気密性を上げる為にベタ基礎やコンクリート製の家が多くなり、室内に発生した湿気が逃げ場を失い、高湿度になりがちです。しかも、有害化学物質を低減させた建材が多用され、健康に良かった分、カビが発生しやすい建材になっています。



畳は、空気の吸収・放出を自然に行う性能があり、湿気を調節する性質を持っています。当然これは日本の風土からすると快適なのですが、反面湿度が極端に高いと、どんどん湿気を吸収してしまいます。

新しい畳ほどこの能力が高く、古い畳はイ草が潰れてこの機能が衰えています。だから新しい畳ほどカビが発生・繁殖しやすいと言われているのです。



● ● ● その他 くらしの豆知識 ● ● ●

濡れた瓦はすべります。危ないですよ！



雨上がりのまだ瓦が濡れている時に屋根に登るのはとても危険な行為です。実際、職人さん達にお聞きすると、濡れている屋根には絶対登らないと言われます。地下足袋を履いていても滑り易いのに、運動靴で屋根に登っている素人の方を見ると身震いがするとも言われます。これから大雨や台風のシーズンを迎えますが、屋根の上は危険地帯という認識を持ち、安易に屋根に登るのは避けられることをお勧め致します。



台風の時以外にも雨戸を閉めましょう！



雨戸は台風が来た時にしか閉めないというお話を良く聞きます。最近のサッシは気密性が高いので、少々の雨では雨水が屋内に入るという事はありませんが、それでも吹き付けるような大雨の時は、レールを伝って雨水が屋内に入る事があります。場合によっては、2階の窓から侵入した雨水が、1階の天井をシミだらけにしてしまう事も有ります。サッシは決して万能では有りません。雨の日は、やはり雨戸を閉めた方が良いでしょう。



水抜き溝がある事をご存知でしたか？



サッシの窓枠を良く見ると、レールの両端は2センチほど切れていて、窓枠も両端に切れ目がある事が分かります。これはレールに溜まった雨水を外に流す為のものです。網戸を左右どちらかにピッタリと付けていると、雨の多い場合は、この切れ目から水が抜け切れず、サッシの内側に漏れ出る場合があります。念の為にも、雨戸が無く、大雨の時は、網戸は中央に寄せておく事をお勧めします。

